

法人名 (財)山梨県甲府・国中地域地場産業振興センター

【法人の概要】

代表者名	宮島雅展		所管部(局)課	観光部観光企画・ブランド推進課		
所在地	甲府市東光寺3-13-25		電話番号	055-237-1641		
ホームページURL	http://www.kaiterasu.jp		E-mailアドレス	yjiba_wa@xpost.plala.or.jp		
資本金(基本財産)	30,000	千円	設立年月日	昭和59年1月10日		
主な出資者	出資順位	出資者名		出資額		出資比率
	2	山梨県		10,000	千円	33.3 %
	1	甲府市		10,039	千円	33.5 %
	3	(協)山梨県ジュエリー協会		700	千円	2.3 %
	4	山梨県宝石研磨工業協同組合		700	千円	2.3 %
	5	山梨県貴金属工芸協同組合		700	千円	2.3 %
	6	北杜市		508	千円	1.7 %
	7	甲府商工会議所		500	千円	1.7 %
	8	(社)山梨県機械電子工業会		500	千円	1.7 %
	9	山梨県家具工業協同組合		500	千円	1.7 %
	10	山梨県ニット工業組合		500	千円	1.7 %
	その他	20団体(者)		5,353	千円	17.8 %
設立経緯概況等	地場産業に関する新製品、新技術、デザインの開発や地場産業の普及促進を積極的に推進することを目的とし、ワイン、水晶、印伝など21業種にもおよぶ地場産業製品の展示施設として、昭和60年9月に開館した。					

【主要事業の概要】

主な事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		H18年度	H19年度	H20年度
事業1 地場産業まつりの開催(2回)	H18年度 秋(国補) 春まつり H19年度 夏まつり 春まつり H20年度 秋まつり 春まつり	12,070	8,087	9,212
事業2 自主企画展の開催	新商品の紹介及び伝統の技を紹介し製品の普及及び地場産業の振興を図っている。	798	498	2,261
事業3 シャンデリアワインコンサートの開催	豪華なシャンデリアの下で、地元出身の音楽家の音色を聞きながら、山梨のワインの味を堪能している。	350	299	0

【組織】

	年度	平成19年度				平成20年度					平成21年度					
		職 員 パ ー 員	派 遣 ・ 兼 務	県 職 員	県 O B	そ の 他	職 員 パ ー 員	派 遣 ・ 兼 務	県 職 員	県 O B	そ の 他	職 員 パ ー 員	派 遣 ・ 兼 務	県 職 員	県 O B	そ の 他
4月1日現在の人員																
役員	理事(常勤)	2			1	1	2			1	1	2			1	1
	理事(非常勤)	19		1		18	19		1	18	19		1		18	
	監事(常勤)	0					0				0					
	監事(非常勤)	2		1		1	2		1	1	2				2	
	評議員	22		2		20	21		2	19	21		2		19	
	計	45	0	4	1	40	44	0	4	1	39	44	0	3	1	40
職員	管理職	1		1			1		1		1		1			
	一般職員	2	1			1	2	1		1	2	1			1	
	臨時職員	3				3	2			2	3				3	
	非常勤職員	2				2	2			2	1				1	
	計	8	1	1	0	6	7	1	1	0	5	7	1	1	0	5
プロパー職員の年齢構成(H22.4.1現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計				平均年齢		平均年収		
	男性							0	役員			61		(千円)		
	女性							1	常勤					3,967		
	合計	0	0	0	0	1	0	1	職員			※		(千円)		

※ 常勤職員は、1名であり、個人情報保護の観点から非公開

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		18年度	19年度	20年度	増減(20-19)
正味財産の状況	基本財産運用益	420	420	420	0
	受取会費				0
	受取寄付金				0
	受託事業収益				0
	自主事業収益	72,943	74,131	103,069	28,938
	受取補助金等	44,638	40,005	31,342	△ 8,663
	雑収益	1,361	1,455	3,528	2,073
	経常収入 計	119,362	116,011	138,359	22,348
	事業費	9,992	5,520	9,212	3,692
	うち人件費	0	0	0	
	管理費	112,520	112,223	154,806	42,583
	うち人件費	51,436	51,717	46,955	
	経常支出 計	122,512	117,743	164,018	
	当期経常増減額	△ 3,150	△ 1,732	△ 25,659	△ 23,927
	経常外収入	0	0	0	0
	経常外支出	0	0	0	0
	当期経常外増減額	0	0	0	0
	当期正味財産増減額	△ 3,150	△ 1,732	△ 25,659	△ 23,927
	正味財産期首残高	1,411,014	1,407,863	1,406,132	
正味財産期末残高	1,407,864	1,406,131	1,380,473	△ 25,658	

(単位:千円)

項 目		18年度	19年度	20年度	増減(20-19)
財務状況	流動資産	68,735	74,964	45,244	△ 29,720
	固定資産	1,479,688	1,457,541	1,450,250	△ 7,291
	資産 計	1,548,423	1,532,505	1,495,494	△ 37,011
	流動負債	8,452	12,626	15,797	3,171
	うち短期借入金				0
	固定負債	132,108	113,747	99,225	△ 14,522
	うち長期借入金	127,116	108,482	93,180	△ 15,302
	負債 計	140,560	126,373	115,022	△ 11,351
	正味財産	1,407,863	1,406,132	1,380,472	△ 25,660
	うち基本財産への充当額	30,000	30,000	30,000	
うち特定資産への充当額	0	8,924	10,875		

(単位:千円)

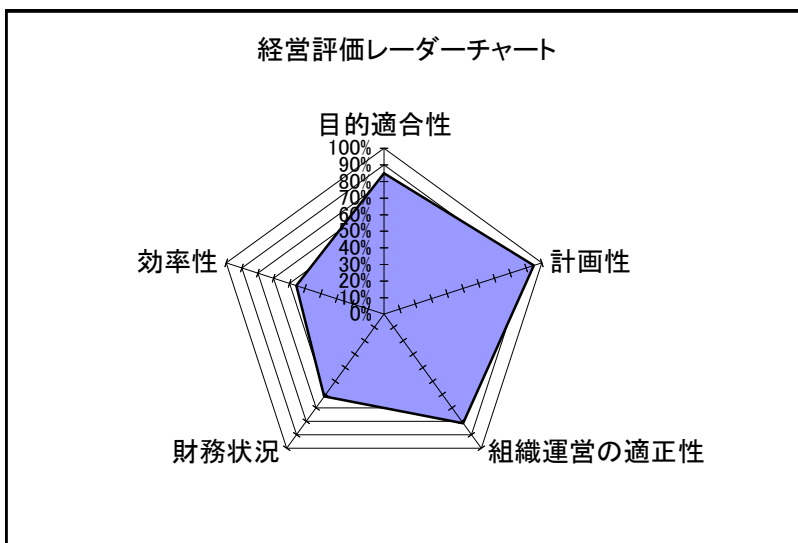
項 目		18年度	19年度	20年度	増減(20-19)
県の財政的関与の状況	負担金				0
	人件費(派遣法)補助金	9,361	8,127	7,724	△ 403
	人件費(派遣法以外)補助金	5,334	5,329	5,666	337
	人件費以外の補助金				0
	運営費補助金	14,695	13,456	13,390	△ 66
	事業費補助金	5,689	3,189	3,189	0
	補助金 計	20,384	16,645	16,579	△ 66
	人件費(派遣法)委託金				0
	人件費(派遣法以外)委託金				0
	人件費以外の委託金				0
	委託金 計	0	0	0	0
	県支出金 計	20,384	16,645	16,579	△ 66
	県の財政的関与の割合(%)	17.1	14.3	12.0	△ 2
県貸付金残高	83,783	71,815	59,847	△ 11,968	
県債務負担実際残高				0	

【県の財政的関与の内容・目的】

項目	内容・目的
補助金(運営費)	県OB、派遣職員に対する地場産業振興センターの振興費(運営費)補助金
補助金(事業費)	地場産業センタースプリンクラー設備設置費高度化資金の償還補助金
委託金	
債務負担行為	

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	5	20	17	85.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	5	20	19	95.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	4	16	13	81.3%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	11	44	27	61.4%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	9	36	20	55.6%
合計		34	136	96	70.6%



【警戒指標】

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	財団の設立目的に添って事業を進めるとともに、既存事業の中にも新企画を取り入れるなど成果をあげている。
計画性	事業実績を毎月分析し、事業計画に活かしている。管理費等の分析も進め支出をいかに抑えるか検討している。
組織運営の適正性	プロパー職員1名のためのため、今後の検討に入っている。20年対応財務会計ソフトを導入して公益法人改革の準備を進めている。
財務状況	開館から23年が経ち修繕費や減価償却費が多くなっているため赤字決算になっている。なお一層の増収に勤め安定的な財源確保に努力する。
効率性	平成16年のリニューアル後売上げは順調に伸びているのでこのままの伸びを維持すよう努力する。貸館事業はよりPRして増収を計る。
総合的評価	経費の節減・収入のさらなる増加を図り、快適空間施設を目指し、リピーター客を増やす一層の努力をしていく事により安定した経営が出来ると思う。



対応策	新たな視点に立った創意工夫をこらした取組みを広範に展開していく。 1入館者増加策の積極的展開、2誘客に向けた話題性のある事業の実施、3情報発信機能の拡充強化、4農林畜産物等との連携による売上増加策の推進、5販売協同組合等とのさらなる連携強化、6レストラン部門との連携の緊密化 など
-----	---

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	地場産業支援のため新企画を積極的に行っている。また、観光拠点として周辺の観光施設と連携し、誘客に向けた特色あるイベントを企画し積極的なPR活動を展開している。
計画性	計画に沿った運営が行われており、「企画運営部会」を設置し、企画立案、実施運営の拡充強化が図られている。
組織運営の適正性	適正に組織運営が行われている。プロパーの正規職員が1名で、50代半ばであるため、適正な職員構成を維持するため、その採用を検討する時期にある。
財務状況	自主事業収入は、少しずつであるが増加傾向にある。県の財政的関与を比較的低い割合に抑えることができている。
効率性	展示ケースの電球LED化、フロアの蛍光灯を省エネタイプに交換するなど管理費の節減に努めている。引き続き徹底した管理経費の削減など、一層の経営努力に努めること。
総合的評価	大きな地場産業の紹介イベントを年2回開催しているほか、年間を通して様々な自主企画展を実施し、地場産品のPRに努力している。話題のある事業を広範に展開し、周辺観光施設との連携を図りながら施設への集客に努めている。また、老朽化したトイレの改修など利用者へのサービス向上に努めている。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営評価アドバイザーによる総合評価)

今後更なる改善、見直しを行うべき視点	
総合的所見	
※ ランク下の%は得点率の範囲	<p>・3期連続して当期正味財産増減額で赤字を計上しているため、財務状況の評価が低くなっている。固定資産の減価償却が大きな要因ではあるが、同じく評価の低い効率性の改善と併せ、徹底した管理経費の削減など、一層の経営努力が求められる。</p> <p>・周辺観光マップの活用やイベントの開催など、集客力向上のための不断の取り組みを行うとともに、業務の外部委託など経費削減の手法について調査研究を行う必要がある。</p> <p>・公益法人制度改革を踏まえて、今後の法人の在り方について、検討する必要がある。</p>



【総合所見等に対する今後の対応方針】

- ・事務事業全般の検証に基づく、業務の効率化や収支改善に引き続き取り組む。
- ・旅行会社へのツアー提案、記念イベントの実施、ホームページやダイレクトメールなどにより集客力向上を図る。
- ・省エネルギー化によるコスト削減を図るとともに、増収対策の調査・検討を実施する。
- ・経営分析や経営のあり方などについて調査するとともに、経営改革検討会議を設置し、公益法人制度改革への対応を検討する。